

教育界のトップリーダー

金井
兼

学校法人金井学園理事長

Kanai
Ken



金井兼（かない・けん）

昭和41年11月14日福井市生まれ。平成6年3月福井工業大学大学院博士後期課程修了・工学博士号取得。平成11年関東大学校（韓国）名誉博士。平成12年4月福井工業大学電気工学科教授（平成19年3月31日迄）。平成元年学校法人金井学園総務部長に就任。平成4年12月同学園理事長に就任。趣味：馬術、ゴルフ。学生時代より、馬術部にて活躍、現在全日本学生馬術連盟副会長の要職を務める。福井経済同友会幹事、福井県サッカー協会会長。

抜本的組織改革で公立の上をいく
教育先進県にふさわしい学校を目指す。

**数より質。
中身を充実させ、時代に
即応した学校経営をして
いくかが重要！**

更紗編集部 創立60周年を
迎えた金井学園のトップとし
て学園運営の理念をお聞かせ
下さい。

金井兼・学校法人金井学園理
事長 申し上げるまでもない
ことですが、私立学校運営の
最たる特色は「建学の精神」
です。当学園は、「悠久なる日
本民族の歴史と伝統とに根ざ
した愛国心を培い節義を重ん
ずる人格の育成、科学技術の
研鑽に努め、以て人類社会の
福祉に貢献する」を建学の精
神として設立されたもので
す。この精神は普遍ですが、
中身をどのように充実させて
いくか、いかに時代に即応し
た学校経営をしていくかが重
要だと考えています。

当学園は昨年創立60周年
を迎え、五カ年の中期経営計

画を策定し、「金井学園アクシ
ョンプラン60」として公表
しました。この「金井学園ア
クシジョンプラン60」こそ、
現在の経営理念を具体化した
ものと言えます。

この経営計画では、達成す
べき目標として、「選ばれる学
校を目指す」「福井工業大学・
附属福井高等学校・附属福井
中学校の連携の強化」「社会貢
献活動をより推進」「卒業生と
の交流の強化」「国際化への対
応」「産学共同研究活動の推進」
「教職員の人材育成」「教育環
境の整備推進」の八項目を示
しました。

これら八項目に基づき、毎
年、より具体的行動計画を各
学校が策定し、実行に移して
います。教育の特性上、すぐ
には結果が伴わない場合もあ
りますが、PDCAを繰り返し返
しながら、理想とする学園づ
くりを進めています。

また、私どもは学園を下か
ら支える立場ですから、例え

ば学園が作成するパンフレッ
トでは学長や教授、学生達を
前面に出すスタンスでありま
す。

現在、私立学校を取り巻く
環境は困難さを増しています。
少子化が進む中で、数が絶対
の成長の目安ではなくなつて
います。また、我が国の現状
を多方面からみたときに、教
育予算の中で、大学の研究費
などが減らされていることが
懸念されます。むしろ倍増す
べきなのではないかと思いま
す。十年先、二十年先の日本
の将来を見据えた、しかるべ
き対応が望まれます。

このような環境の中、これ
からの大学には、教育・研究
機関としての役割だけでなく、
知的財産を地域に提供し社会
に貢献するという使命がある
と考えています。そこで、勝
山市・あわら市・鯖江市・福
井市と相互連携協定を締結し、
地域との連携を目指していま
す。また、小中高生の理科離

れを防ぐための「科学実験キ
ャラバン」や公開講座「未来
塾」の充実にも力を注いでい
ます。

厳しい経営環境ではありま
すが、明確な目標と行動計画
をもって臨みたいと考えてい
ます。

**学生から選ばれる、社会
から評価される、教職員
が理想とする大学、学校
を目指す**

更紗 今春から高校の学科再
編を実施した意図は。

金井 前段で申し上げたよう
に、「選ばれる学校を目指す」
ため、大胆に学科再編を行
いました。この改革は、今年度
四月から従来の学科を改編し
特別進学科・進学科に集約し、
東大・阪大・京大・医学部な
どの難関大学への合格を目指
す進学校へ転換を図るもので
す。

大学への進学率が50%を
超える中、保護者が求める学

校の姿、そして、少子化の中での生き残りをかけた改革と云えます。もちろん、「文武両道」を教育理念とする高校ですから、スポーツ面でも県内のみならず、全国でも有数の強豪校を目指します。

大学について申しますと、昨年四月にデザイン学科を新設し、今年四月からは八学科二コース体制での新工学部をスタートさせました。「想像力」「人間力」「共生力」の三つの力を兼ね備えた次世代のモノづくり技術者の育成に取り組みむという夢は、着実に実行に移しています。

先に申し上げました高校の学科再編に伴い、中学校の改革をも進めています。県内で唯一、中学校から高校、大学までの一貫教育を担っているという当学園の強みを生かすために、中学校では中高一貫で学ぶ生徒のための選抜一貫コースを設け、必要な授業時間数を確保し、学力の向上、

ひいては進学実績の向上を目指しています。

以上申し上げましたように、高校の学科再編は、単に高校のみの改革にとどまるものではなく、金井学園全体として、アクションプラン60に基づいて推進している改革の一環です。

当学園の大切な財産であります「卒業生との交流の強化」や、地域の産業界との密接な連携を図りながら進める「産学官共同研究活動の推進」、さらには政府の方針に沿った海外からの留学生の受入れにも力を入れておりますし、教育サービスの基本となります教育環境の整備も、着実に進行しています。具体的には、学生主体のものづくりの空間工房として「S S Lデザイン工房」を昨年完成させ、東京ドームの約二・五倍の敷地面積となる「カール・マイヤー・グラウンド」についても、今秋の完成を目指して建設を進

めています。

そして、これらの改革を着実に実施し、成功へと導いていくために不可欠な教職員の人材育成にも、積極的に取り組んでいます。

「すべてを学生・生徒のために」をキーワードに、全力を尽くす。

更紗 附属幼稚園、保育園も視野に入れた一貫校への意欲は。

金井 私立小学校の設置に関心は持っています。また、県私立学校連合会として私立幼稚園、保育園のお手伝いをできることがあればさせていたいただきたいとも考えています。しかし、今もっとも優先すべき課題は、現在の中高校生達を優秀な生徒に育て上げることです。中高一貫の抜本的組織改革を進め、何となく公立優位の意識が残るといわれるこの福井県においても、「私立」

が決して「公立」にひけをとらない、むしろ上を行く評価をいただけるような教育先進県にふさわしい学校にしたい、これが今の私の思いです。そのためには現在の中高大での教育に全神経を集中させ、他には分散しないことが大切であると考えています。

大学、高校、中学校それぞれが、理念と明確な事業計画をもったピラミッドを形成し、さらに各学校とこれを支える法人本部との連携を強化することで、金井学園という一つの確固としたピラミッドとなること、これが現在の目標です。今後も、「知育・徳育・体育」とバランスのとれた人間教育の実践、人間力の育成という基本理念に基づき、「すべてを学生・生徒のために」をキーワードとして掲げ、先に申し上げました中期経営計画の成功に向け、教職員一丸となつて取り組んでまいります。

金井学園創立60周年



歴代学校記念碑除幕式(2010年3月27日)



福井工業大学
理事 志村 史郎
会 長

歴代学校記念碑を建立

福井県の教育を常にリードしている金井学園。創立六〇周年の節目を迎え、さらなる成長を目指す。

創立六〇周年を迎えた金井学園は、記念事業の一環として、発祥校となる「北陸電気学校」から学園発展のために閉校・閉学したこれまでの学校の歴史を刻んだ「金井学園歴代学校記念碑」を学園内建学の森に建立した。

三月二十七日、各校の卒業生や元教員、同窓会等関係者ら約一四〇名が出席し、金井理事長らが記念碑の除幕を行った。式後、学園内を見学した

参加者らは、アカデミアホテルで開かれた懇親会に参加。

城野政弘福井工業大学学長は、「中国の諺に『飲水思源』

ということがある。水を飲む時はその井戸を掘ってくれた人たちの苦勞を忘れてはならないという意味です。

現在我々が教育研究に励むことができるのは、皆様方のご苦勞あつてこそと思っております。技術は豊かな生活をもたらすと共に環境や資源エネルギー問題など負の面もたらしました。このような時代において、これから我が国が近隣諸国と競争していくには、我が国でなければできないような技術と、ものづくりを通じて国を興していくことが必要です。我々はそれを支える



人材育成に努めています。教育、研究と合せて社会貢献も大学の大きな使命のひとつであると考えています。福井にある工業大学として社会に役立つような様々な公開講座を通して活動していきますので、同窓会の皆様にも、よろしくご指導、ご協力をお願いいたします」と挨拶を述べた。

「建学の精神」受け継がれ

福井女子短期大学

(昭和 40 年 4 月～昭和 52 年 3 月)

福井女子短期大学は昭和 39 年 4 月に福井短期大学に設置された家政科を独立して昭和 40 年 4 月開学した。同敷地内の福井工業大学が学科増定員増と発展する中で校地・校舎が不足するようになり福井女子短期大学は福井工業大学の一層の発展のために苦渋の選択の末やむなく昭和 51 年度より学生募集を停止した。最後の卒業証書授与式は昭和 52 年 3 月 17 日に举行され、卒業生 565 名を実社会に送り出し 12 年間の歴史の幕を閉じ閉学した。

フクイモダンデザイン専修学校

(昭和 54 年 4 月～平成元年 3 月)

昭和 54 年 4 月「フクイモダンデザイン専修学校」の校名で開校した。校地・校舎は創立者の金井家居住地福井駅前南通り（福井市中央 1 丁目）の金井学園会館であった。平成元年 4 月地域産業に根ざしたデザイン教育を強調するため校名を「福井産業デザイン専修学校」と改称した。

福井産業デザイン専修学校

(平成元年 4 月～平成 11 年 3 月)

福井工業大学附属 マルチメディア・デザイン・カレッジ

(平成 11 年 4 月～平成 14 年 3 月)

福井産業デザイン専修学校は平成元年 4 月に昭和 54 年から開校していた「フクイモダンデザイン専修学校」の校名を改称したものである。平成 2 年 10 月福井校地に専修学校本館を新築し校舎を福井駅前通りの金井学園会館から現福井校地（福井市学園 3 丁目）に移転した。平成 11 年 4 月校名を「福井工業大学附属マルチメディア・デザイン・カレッジ」に改称した。金井学園デザイン系専修学校は 450 名の卒業生を輩出し多くの有為なデザイナーを社会に送ったが学齢人口急減の影響を受けて平成 14 年 3 月やむなく 23 年間におよぶ歴史の幕を閉じ閉校した。

福井工業大学別科工学専修科

(昭和 61 年 4 月～平成 15 年 3 月)

2 年制の福井工業大学別科工学専修科は昭和 61 年 4 月に開校された。この別科は現代の科学技術が急速に発展し高度化多様化している中でその高度な技術を使いこなして産業社会の即戦力となりうるプロフェッショナルな人材を短期間で養成するために設置されたものである。短期集中型のカリキュラムによる実践的な教育が行われ各種国家試験資格取得が目標とされた。18 歳人口激減の影響を受けて学生数が急減しついに平成 14 年度末をもって 2,382 名の卒業生を送り出し福井工業大学別科工学専修科の歴史の幕を閉じ閉科した。



建学の森に建立した歴代学校記念碑

北陸電気学校

(昭和 21 年 4 月～昭和 28 年 3 月)

北陸電気専門学校

(昭和 28 年 4 月～昭和 36 年 3 月)

北陸電気学校は昭和 24 年 4 月金井兼造氏（1922～2004）により福井市豊島上町（現・福井市中央 2 丁目）に夜間学校として創立された。これが金井学園の起源である。北陸電気学校は昭和 25 年 4 月学校教育法に規定する修業年限 2 年の昼間制各種学校となった。北陸電気学校は昭和 28 年 4 月校名を「北陸電気専門学校」と改称した。昭和 33 年 4 月産業界からの要望もあり文部省令による高等学校を申請し、昭和 34 年 4 月「福井実業高等学校」が誕生した。

福井実業高等学校

(昭和 34 年 4 月～昭和 40 年 3 月)

福井実業高等学校は「北陸電気専門学校」が昭和 34 年文部省令による高等学校として再編されたものである。校舎は開校当初福井市東明里町 29 番地にあったが昭和 34 年 10 月に福井市東明里町 20 番地（現校地・学園 3 丁目）に新築移転した。同校は昭和 41 年度から大学進学に適した普通科が増設し昭和 40 年 10 月校名を「福井高等学校」と改称した。この校名はさらに昭和 53 年 2 月現在の「福井工業大学附属福井高等学校」に改称された。

福井短期大学

(昭和 38 年 4 月～昭和 41 年 3 月)

福井短期大学は本県の産業界と県民の強い要望と期待のもと「高等技術者の養成」を目指して昭和 38 年 4 月に開学した。しかし福井短期大学は昭和 40 年 4 月には 4 年制大学として開学した福井工業大学に再編された。昭和 41 年 3 月第 1 回卒業生と合わせて卒業生総数 81 名を送り出し 3 年間の歴史の幕を閉じ閉学した。